

## 拙訳

### Make the most of your chances

Atsuko Takamiya

SPECIAL TO JAPAN TIMES

「どうしたら通訳になれますか?」。講演などで、私がいちばん多くいただく質問だ。私自身、通訳として専門のトレーニングを受けたこともないので、通訳ですと名乗るのも気が引ける。自分の仕事をより正確に名乗るならば、多国籍ビジネスを支えるコミュニケーター、とでも言おうか。いずれにしても、フリーランスの仕事というのは出会いやチャンスに大きく左右されるわけで、それらを夢中でめいっぱい生かしてきたのは事実。そもそも、よいスタートをきった。

私は海外で過ごした経験はほとんどないし英語も全然ペラペラではない。ちょっと昔の話をすると、コンピューター企業を退職した2002年3月、無職になり、お腹には赤ちゃんがいた、そんな状況だった。でもそれは言い換えれば、自由につかえる時間と将来への希望なわけで、ならば取れそうな資格でも取ろうかと勉強に励み、通訳案内士の国家試験に合格した。その1ヵ月後、娘が誕生した。そして、彼女が2歳になった2005年の春、通訳ガイドとして働き始めた。

当時、私は九州に住んでいた。九州といえば、美しい自然、新鮮な食、アジア諸国の影響を受けた異国情緒と、恵みに溢れる素晴らしい地域だ。外国人観光客をお連れして、九州中を旅できるのは最高に楽しかった。また、通訳ガイドにはホスピタリティー精神が大切で、体力の維持も欠かせないことを思い知った。そんなこと、勉強していた頃には考えてもいなかった。人生何事もやってみないとわからないと、つくづく思う。

2009年3月、九州から東京に戻るのと同時に、私は再び無職になってしまった。それでも次第にチャンスに恵まれ、企業の仕事が増えていった。東京は世界有数のビジネス都市、世界中から人が訪れる。そのなかに、国境を越えてパワフルに活躍するトップクラスのビジネスパーソンたちがいる。彼らが日本で仕事をするとき必要なのは、英語と日本語両方を操れる人だ。ただ訳すのではダメ、ちゃんと交渉ができて、ビジネスをよい方向に繋げるムードまで作れる人。それが今、私の職業として成立しつつある。自分に何が向いているか、周りの人が見つけてくれた。

しだいに固定客が増えていった。これはインターネットの恩恵が大きい。モバイル機器でリアルタイムに繋がることのできるのだから。スマートフォンにメールで入った仕事の依頼が数分後に成立したり、お客様が自分の友人や仕事仲間を紹介してくれたり、ウェブサイトを通じて新規のお客様を獲得することもある。インターネットによってビジネスはよりオンライン、ダイレクトになり、可能性も広がっている。その礎となっているのは、リアルな、人と人との信頼関係だ。

キャリアを重ねるうちに、新たなチャンスにも恵まれた。去年はゲストスピーカーとして、立教大学、宇都宮大学、東京経済大学、慶応大学で外国人観光について講義を行い、また、地方のシンポジウムで話をする機会もいただいた。先月は企業顧客の招待でドイツを訪問、自分自身、相手の国を訪れることで多くを学んだ。人生は、思いがけず素晴らしい方向に展開する。そのスタートをきるチャンスは、いつもそこにある。

(日本語訳：本人)